

ちばレポ (My City Report) ～ICTを活用した協働のまちづくり～

(千葉県千葉市)

取組概要

- 平成26年度から、道路損傷などの地域課題をスマホアプリを使って市民がレポートすることで、市民と市が課題を共有し、合理的・効率的に解決する「ちばレポ」を運用している。
- 運用開始後、東京大学生産技術研究所と「ちばレポ」に関する共同研究に着手。得られた成果を基に、複数の自治体の実証実験に参画し、「ちばレポ」を横展開しやすい仕組みやAIを活用した道路維持管理業務の高度化機能を組み込んだ次世代型市民協働プラットフォーム「My City Report(MCR)」を共同開発した。
- 平成31年3月にMCRを共同運営するためのコンソーシアムを設立。「ちばレポ」と同様の仕組みを全国に展開している(R4.4.1現在28自治体参加(1都2県5区18市1町1村))。

人口 977,306人 (R4.1.1現在)
担当 広報広聴課



取組の効果

- 市民意識の変化**
レポート投稿、課題解決への参加を通じ、まちや行政への関心が高まる。
- 市民満足度の向上**
24時間受付の新たなチャネル提供による利便性向上、課題解決プロセスの可視化による行政活動の透明性・説明責任の確保
- 全国の自治体への横展開**
MCRコンソーシアムに28自治体が参加(R4.4.1時点)。
DID(人口集中地区)のカバー率…人口:約3割、面積:約2割
- 共同運営によるコストダウン**
人口規模に応じた会費設定。小規模自治体も導入しやすい。
【参考】千葉市(人口100万人以下):3,000千円/年(*) (R5~2,400千円/年に変更)
(*)オプション除く基本会費のみ

創意・工夫した点

- ネット利用率・スマホ保有率の向上を背景に、まちづくりにICTを活用
- アプリ上で対応状況を随時連絡し、双方向性を実現
- 単なる通報ツールにとどまらず、多様なレポート機能を用意(かいけつレポート、テーマレポート)

他団体へのアドバイス

人口減少・地域コミュニティ希薄化などにより、市民協働の必要性が増えています。ちばレポのような取り組みにより、自治体と住民の協働を実現しましょう。



アプリの画面イメージ